つるぎ町
Tsurugi Town

議会だより

第24号
2012・10・26

半田げんきっこクラブ（9月21日撮影）

9月定例会

決まったこと	2〜3頁
一般質問	4〜5頁
委員会審議	6〜13頁
議会インタビュー	14〜15頁
視察研修報告・議会のうごき	16頁

9月定例会

9月定例会を7日から19日までの13日間の会期で開催しました。上程されたのは、平成23年度各種会計決算認定2件、議案4件、報告1件、計7案件で、各常任委員会へ付託し、十分な審議を経て全案件を全会一致で承認・可決しました。

平成24年度補正予算

一般会計

①90万円の追加補正（8月8日専決処分）内容は、全日本コーラス全国大会への補助金です。

②1億3、753万4千円の追加補正

主な内容は、臨時財政対策債確定による財源の振替、森林整備加速化・林業飛躍事業による林道開設工事費、残土処理場関連工事費、学校施設解体工事費、不活化ポリオワクチン接種委託料等です。

介護保険特別会計

782万9千円の追加補正

内容は、過年度過誤納還付金等です。

※6～13頁に補正予算関連記事掲載

内容は、つるぎ町（小山北工業団地等）への企業進出促進を図るため、環境施設面積（緑地面積）を3%から1%に緩和するものです。

※10頁に関連記事掲載

決算を認定

歳出総額
8万5千円

歳出総額
7万1千円

臨時財政対策債とは

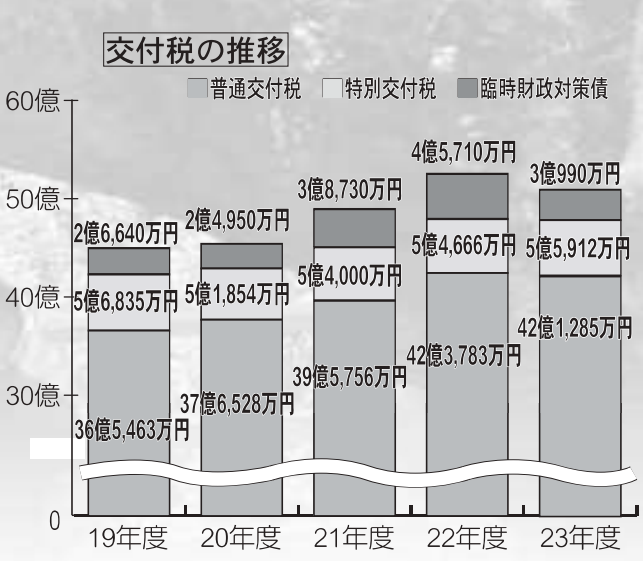
国の地方交付税の原資が不足した場合、不足分の一部を臨時財政対策債として地方自治体に借金させ、償還に要する費用は交付税措置（基準財政需要額に算入）するという制度です。

(株)ラ・フォーレつるぎ山 平成23年度決算報告

143万7千円の黒字

大震災後の観光自粛・経済低迷等の影響で、売上は前年に比べ310万円減となりましたが、従業員一丸となった効率的な運営努力により、黒字決算となりました。

平成23年度決算から見る最近5年間の推移



監査意見（抜粋）

平成23年度は東日本大震災による経済活動への深刻な打撃からスタートし、長引く世界的な景気低迷と相まって、厳しい地方財政へのさらなる影響が懸念された1年であった。

本町においても、依然厳しい財政状況の中、財源の確保や効率的配分等に尽力され、経常収支比率は89.0％で、平成23年度は臨時財政対策債の減額等の影響で前年度よりやや上昇したが、合併当初の105％と硬直した財政構造と比較すると大きく改善されている。

また、公債費比率が5.7％、起債制限比率が5.2％、実質公債費比率が11.3％と、いずれも前年度より改善しながら、小中学校の耐震化改修工事や道路整備等、安心・安全な地域としての活性化に取り組み、住民福祉の向上に努力されたことが伺える。

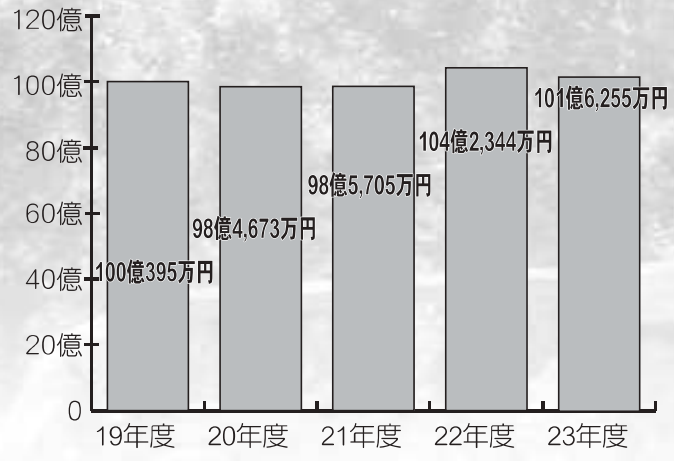
今後においても厳しい財政状況が予想されることから、それぞれの分野において、最小の経費で最大の効果をあげるための積極的な点検・見直しを行い、引き続き健全な財政運営に努められるよう望むものである。

監査委員　**宮武　秀信**
監査委員　**長浦　英彰**

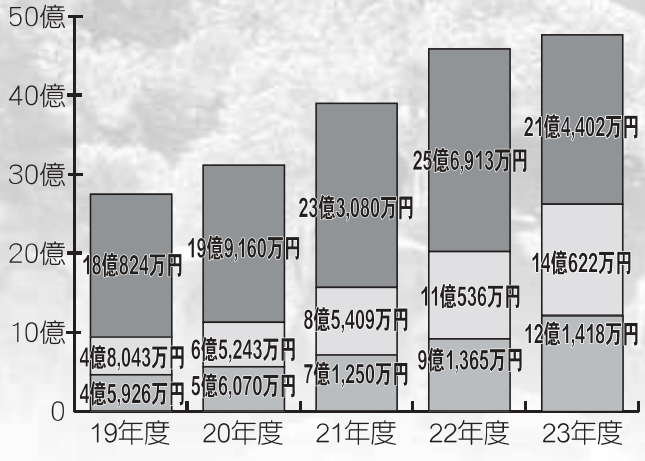
条例の一部改正

○つるぎ町企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律第十条第一項の規定に基づく準則を定める条例の一部を改正する条例

地方債の現在高



基金の状況　財政調整基金　減債基金　特定基金



町政のここが聞きたい

問 防災対策の強化充実を

答 職員の配備連絡体制等を整備充実

質問 吉田光子（よしだみつこ） 議員

本年7月の停滞した梅雨前線による九州北部豪雨災害、8月の近畿中部の局地的豪雨、そして、沖縄県での台風による強風では、いずれも「これまでにない豪雨」や「当地での観測史上初の強風」などに見舞われ大きな被害が出ている。

最近の天災はまさに人知の及ばない災害だと痛感するが、本町は幸いにして人的被害もなく、町当局の常日頃の懸命の努力の賜物と感謝している。これから本格的な台風シーズンを迎えるにあたり、なお一層の防災対策強化を要請する。

また、国道438号線の貞光川沿いの貞光変電所から八幡橋付近までの間にガードレールが設置されていないが、事故防止のために早急に設置が必要だと考える。町から県の方へ設置に向けて働きかけなどは行われているのか伺う。

答弁 兼西町長

ガードレール設置については、当区間は、延長約1100m、幅員5・5mから7・5mのゆるやかなカーブと直線からなる道路であり、過去には対向時の脱輪や脇見運転等による車の転落事故が発生している。

町としては、以前からガードレールの設置を含めた交通安全対策を県に対し要望を行ってきた箇所である。

しかしながら、当区間は洪水時に度々路面冠水が発生することから、ガードレールの設置は草・流木等が引っかかることにより流水を阻害し、周辺住宅等に被害が及ぶ恐れがあるため、現状ではガードレールの設置は難しい状況であるとの見解が県から示されている。

現在のところは、転落等を必要最小限に抑える対策として、地覆の嵩上げや視線誘導標等の整備で対応しているが、今後も引き続き県の道路・河川の担当部局と協議を持ちながら、最良の交通安全対策がとられるよう働きかけていく所存である。

防災対策の強化については、今年度各課の防災担当者会を随時開催し、台風時における警戒配備体制の見直し等を図っている。この中で、災害対策本部設置後の役割分担等を詳細に設定、職員の災害時連絡体制も整備し、現在、災害時の業務継続計画の策定に着手したところである。また、地域自主防災組織の装備品の充実や、緊急連絡体制の強化も図っているところである。

防災対策に関連して、地震対策については、8月29日内閣府は、東海沖から四国沖にかけての南海トラフ沿いで巨大地震が発生した場合、徳島県で最大3万1千人が死亡、8割が津波による犠牲者との被害想定を公表したが、この数値は、平成17年に徳島県が発表した南海・東南海地震の発生による死亡者4300人を大幅に上回っている。

24年度中に、県内各市町村の被害想定が発表される予定となっており、本町の場合は以前の想定で南海・東南海地震が発生すれば、20人の方が亡くなり２７０棟の家屋が全壊すると予測されていたが、この数値も大幅に増加することが推測される。

中山間地域に位置する本町にとっては、地震による直接の被害の上に、地震にともなう土砂災害、地域の孤立化が心配されており、関係機関とともにその対策を進めることが急務となっている。

台風・地震災害ともに、防災と減災の観点からより実効性のある対策を取る必要があると認識し、災害等から町民の安全を守るための取り組みを、町民の皆さんのご協力をいただきながら、今後も積極的に推進していく所存である。

問 休廃校の校舎・土地の利活用を

答 普通財産への移管も含め活用方法を検討

質問　吉田光子（よしだみつこ）議員

休廃校になった校舎や土地の有効利用は考えているか。

答弁　横野教育長

過疎化や少子化に伴い、小規模化した学校の休校は、平成になって急速に増加した。

現在、休校した学校の校舎や体育館の施設には、積極的に利用されているものとそうでないものがある。利用の少ない休校校舎の有効活用については、重要な課題として認識しているところである。

平成23年度末における本町の学校設置状況は、幼稚園が18園(内14園が休園)、小学校が18校(内13校が休校)、中学校が４校(内２校が休校)、合わせて40校が条例上設置されているが、その内29校、72・５％が休校の状態である。

休校している学校の利用状況は、災害時の避難場所、選挙の投票所、地域の集会所、健康づくりの場所、イベントの会場、公民館等に利用されているものが30校で、全く利用されていないのが、幼稚園10園である。

このように地域住民のために活用されている休校中の学校も多数あるが、地場産業や企業などの需要を掘り起こし、民間への貸与、売却を含めた更なる有効活用の流動性を高めるためには、休校から廃校としての、教育財産から普通財産に移管していくことが必要になってくる。

◀平成24年度徳島県総合防災訓練

普通財産に移管すると様々な形での有効活用が出来やすくなる一方で、学校がなくなれば地域での子育てに影響が出てくる心配もあり、廃校は慎重に行わなければならないと考えている。

こうしたことを踏まえながら、廃校の基準を、休校後10年以上経過していること、施設の耐用年数が終了していること、地方債の償還が終了していること、一定の地域の拠点でないこと、と設定し、検討した結果、現地調査も踏まえ休園・休校中の幼稚園10園、小学校９校、中学校１校を廃校すべき候補とさせていただいたところである。

今後の利活用については、現在は事務レベルで調整をさせていただいており、調整が済み次第、廃校ありきではなく廃校予定校区の代表の方々のご意見を拝聴させていただいた上で最終の判断をし、廃校を決定させていただきたいと考えている。

文教厚生常任委員会

文教厚生常任委員会では、主に教育・福祉・保険・病院等に関する議案を審査します。

委員長　西谷　一廣
副委員長　森長　秀行
委員　石本　貞夫
吉田　光子
尾関　伸也
議長　小坂　重夫
副議長　伊庭　英俊

9月10日開催

委員会での審議

付託案件

◇平成24年度一般会計補正予算
◇平成24年度介護保険特別会計補正予算

おかあさんコーラス

吉田光子委員
全日本コーラス全国大会に出場された半田女声コーラスについて、メンバーの人数と全国大会への出場回数は。

槌谷生涯学習課長
会員数は25名で、指導員が1名、このうち23名の会員と指導員1名が、8月24日～26日に東京都で開催された全国大会に出場した。出場回数は今回で6回目と聞いている。

電源立地地域対策交付金

吉田光子委員
この交付金は一時期900万円あったと思うが、現在では600万円に減額されている。今後も次第に減額され、交付廃止になる見込みか。

大垣副町長
発電施設が所在する市町村等に対して交付されるもので、25年で交付終了ということになっていたが、町長や議会の意見書等のお陰で、減額はされたものの現在も暫定的に600万円を交付していただいている。
しかし、今後いつまで交付されるかは見通しがつかない状況である。

介護基盤緊急整備等臨時特例事業費補助金

石本貞夫委員
この補助金を活用して行う事業内容は。

笠原福祉課長
社会福祉法人「清寿会」が、地域密着型の小規模多機能型居宅介護施設と認知症対応型居宅介護施設（通称グループホーム）を旧うらら荘跡地に併設する。
この事業に対して県から補助金が交付されるもので、補助金の内訳は、施設整備補助金2754万円と備品等整備における開設準備費1080万円である。

旧教員住宅取壊し

小坂重夫議長
柴内小学校(休校中)に隣接している旧教員住宅が老朽化しているため解体するということだが、更地にした後、何か利用を考えているのか。

市原学校教育課長
この土地は個人所有のもので、昭和36年以降、町が地権者から無償で借りていた。今回、地権者の意向により、原形復旧し、返還することとなった。

不活化ポリオワクチン

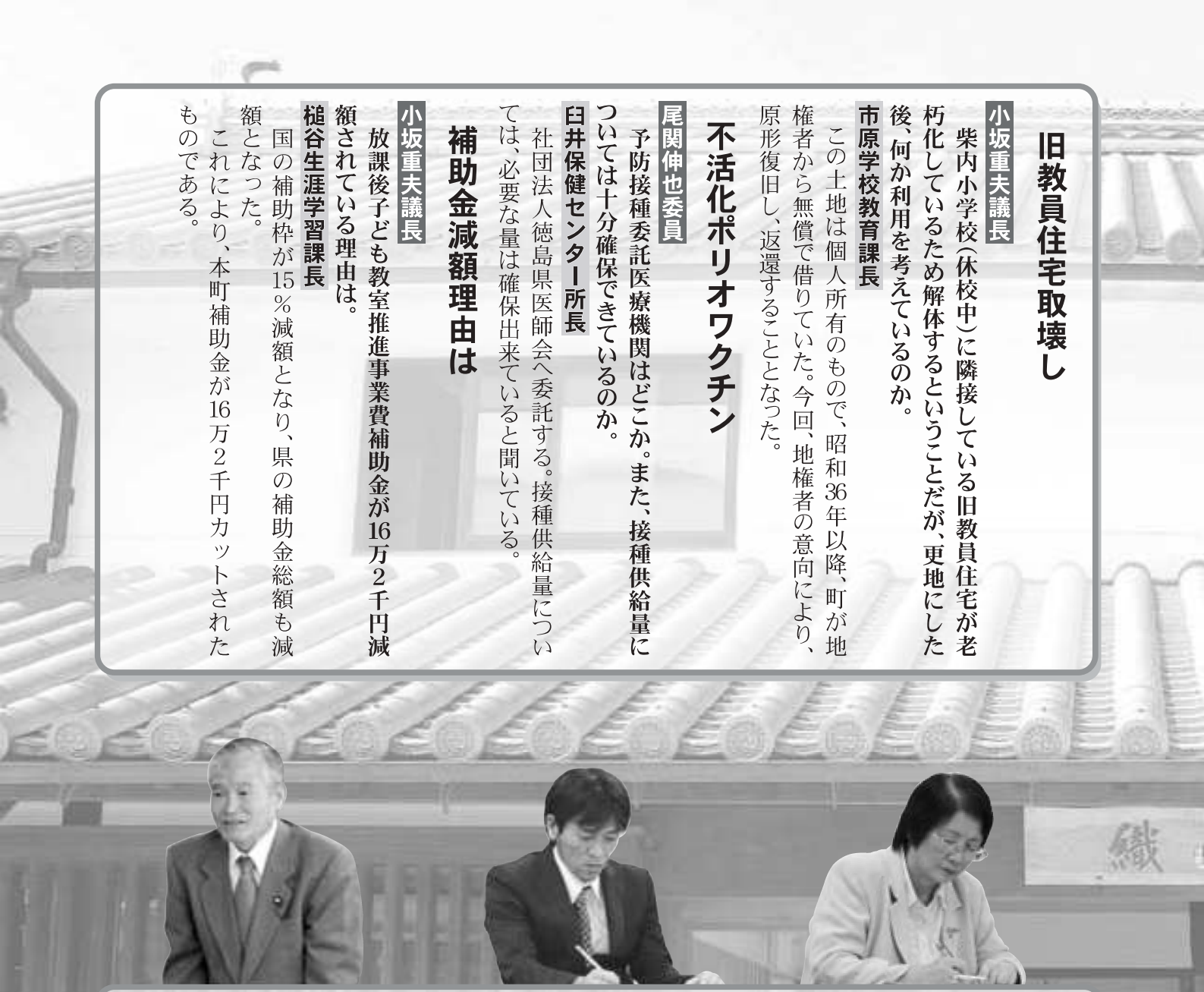
尾関伸也委員
予防接種委託医療機関はどこか。また、接種供給量については十分確保できているのか。

臼井保健センター所長
社団法人徳島県医師会へ委託する。接種供給量については、必要な量は確保出来ていると聞いている。

補助金減額理由は

小坂重夫議長
放課後子ども教室推進事業費補助金が16万2千円減額されている理由は。

槌谷生涯学習課長
国の補助枠が15％減額となり、県の補助金総額も減額となった。
これにより、本町補助金が16万2千円カットされたものである。



介護保険料

吉田光子委員
介護保険料上昇の影響は。また、今後の運営見込みはどうか。

吉本保険課長
本年度、基本額が月300円アップしたが、現在のところ被保険者からの問い合わせ等は多くはきていない。今後の見込みとしては、施設サービス、在宅サービスとも毎年伸びているので、財政的には厳しくなると予想している。

過年度過誤納還付金

吉田光子委員
補正時期及び回数は。

吉本保険課長
還付返納金は翌年度精算となっており、昨年度の実績確定後に返納予定となっているため、毎年1回、9月議会に計上している。

半田病院病棟改築工事

吉田光子委員
南病棟耐震化改築工事の進捗状況は。

沖津病院事業管理者
工程どおり躯体立上げ工事を10月内に完了し、その後内装工事にかかり年内に完了する予定となっている。
病院利用者には、騒音等でご迷惑をおかけしているが、現状において可能な限り配慮に努めている。

産業建設常任委員会

産業建設常任委員会では、主に農林・建設・観光・環境・水道・地籍等に関する議案を審査します。

委員長　長浦　英彰
副委員長　谷川　真角
委員　佐藤　政正
委員　田村　昭仁
委員　齊藤　嘉文
議長　小坂　重夫
副議長　伊庭　英俊

9月11日開催

付託案件

◈平成24年度つるぎ町一般会計補正予算
◈㈱ラ・フォーレつるぎ山の平成23年度決算及び平成24年度事業計画について

残土処理場新設

田村昭仁委員
残土処理場を新設するということだが、既存の処理場の受け入れ可能残量はどのくらいか。
また、既存処理場の満杯後の措置は。

木下建設課長
既存の残土処理場は、受け入れ残量が約2万立方メートルである。今後、宮平トンネル工事が開始された場合、町残土受入量が約3万立方メートルと予測され、既存のものでは対応できないため、今回残土処理場の新設を計画している。
また、満杯(竣工)時の措置については、当該地が徳島県の地すべり指定地であり、開設時に県から処理場竣工時の整備が条件付けられていることから、その条件に基づいた整備を行った後、地権者に返還することとなる。

自然公園管理費

谷川真角副委員長
町指定文化財である成谷の大杉手前に設置されている木橋修復費について、21万円という廉価な予算で橋の修復ができるのか。また、木橋を随時修復していくよりも、鉄骨の橋に掛け替えた方がコストが安くつくのでは。

村上商工観光課長
今回の修復はコストを抑えるため、木部の腐食している部分のみ修復する。また、この橋は正確には、支柱が鉄骨で組まれている一部木製の橋であり、早急な掛け替えが必要というようなものではない。

森林整備加速化林業飛躍事業

小坂重夫議長
この事業の趣旨と、今回整備する範囲はどのくらいか。

山本(半田支所)建設課長
この事業は、基幹林道を整備することによって間伐材の搬出等林業作業の効率化を図ることを目的とし、1mあたり限度額5万円の補助金が国から交付されるものである。今回この補助事業を活用し、林道小谷線において3年間で事業費8千万円、延長1600mの整備(今年度はこの内400mを整備)を行う計画である。

消費者行政事業推進費

谷川真角副委員長

消費者協会へ１００万円の補助金を交付して事業を行うということだが、その内容は。

篠原商工観光課主幹

平成22年度から消費者庁が行ってきた地方消費者行政活性化交付金事業の24年度上積み分に、つるぎ町の消費者協会の事業が採択された。採択された事業内容は、カレンダーや寸劇、講演会等によって悪徳商法等から消費者を守る啓発活動等を行うものである。

道の駅貞光ゆうゆう館

田村昭仁委員

道の駅貞光ゆうゆう館のレストラン部門を3階に集約し、現在レストランとして使用している2階部分を地場産品等の展示販売コーナーに配置換えしてはどうか。収益性の高い物産等の展示面積を拡大し、地場産品等の展示コーナーを通ってレストランへ上がるようにすれば、収益力向上につながるのではないか。

兼西町長

新聞報道にもあったように近隣市が道の駅を開設した場合、ゆうゆう館への影響は避けられない。特に農産品を出荷している農家への影響等を考慮すると、町としても積極的に顧客の確保、収益力向上を図っていかなければならないと考えている。

今後は、先般の内子町視察研修も踏まえながら、従来の体質を改善するため、今年度コンサルティングを導入し、ゆうゆう館の経営を一度原点に帰って見直し、今後のあり方を検討していきたいと考えている。

地震防災の啓発活動

長浦英彰委員長

町民への地震防災に関する啓発活動の一環として、町内の海抜等、地震に関する基礎知識や災害への備えなどを、関係各課が随時、町広報紙に掲載していってはどうか。

兼西町長

災害から住民の生命・財産を守ることは自治体の責務であり、役場職員も日々研さんを積んでいるところである。防災体制の充実・強化と共に、住民の防災意識向上も図らなければならない。

住民の方々の自助防災に役立つような具体的な知識や情報を、広報紙等を通じてしっかりと提供していきたいと思う。

ラ・フォーレつるぎ山決算報告

田村昭仁委員

役員報酬支給対象人数は。

村上商工観光課長

報酬は一名分で、月５万円、年間で６０万円である。

谷川真角副委員長

従業員はパートを含め何名か。

篠原商工観光課主幹

ラ・フォーレつるぎ山の従業員数は、正社員が２名、パート社員が２名である。また、つるぎの宿岩戸は、正社員が２名、パート社員が３名である。

総務常任委員会

総務常任委員会では、主に戸籍、税務、防災、管財、出納、そのほか他の2つの委員会（文教厚生・産業建設）に属さない議案等について審査します

9月12日開催

委員長　三好　昭義
副委員長　田野　一二三
委員　荒井　匡代
委員　小坂　重夫
委員　上家　洋子
委員　伊庭　英俊

付託案件

◈つるぎ町企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律第十条第一項の規定に基づく準則を定める条例の一部を改正する条例

◈平成24年度つるぎ町一般会計補正予算

小山北工業団地

荒井匡代委員　誘致企業等の現況は。また、地元雇用率はどのくらいか。

古林企画課長　小山北工業団地、第一と第二を合わせて7件企業を誘致している。これら企業の総従業員数は674名、内126名が地元住民で、地元雇用率としては18・7％である。

三好昭義委員長　企業の申し込み状況は。

古林企画課長　本町が希望するような企業からの申し込みは今のところない。

荒井匡代委員　工業団地に企業が進出してきた場合、どのような補助金制度があるのか。

古林企画課長　3点ほど補助金制度を設けている。1つ目は工場立地補助金として、投下固定資産（土地、建物、償却資産）の額の2％を補助する。2つ目は、地元雇用奨励補助金として、新規地元雇用者一人あたり40万円を補助する。3つ目は、進出企業の情報提供報奨金として、土地代の4％以内を情報提供者に支払う制度を設けている。

財政調整基金

荒井匡代委員　今の時期に基金繰入を減額する理由は。

中川総務課長　当初予算では、歳入不足分を財政調整基金及び減債基金を取り崩して（繰り入れて）予算を組んでいる。

年度の終わり頃に臨時財政対策債が確定し歳入となって入ってくると、その分基金の取り崩しが必要でなくなるので戻し入れる措置（基金繰入の減額）を行う。

例年はこの措置を3月定例会で行っていたが、今回、臨時財政対策債が予定より早く確定したため、財政調整基金繰入の減額が早まったものである。

半田そうめん祭り

荒井匡代委員
今年はどのようなイベントを計画しているのか。

中川総務課長
10月28日(日)、半田スポーツセンターにおいて半田そうめん祭りを開催する予定である。イベントの内容については、実行委員会をこれまでに2回開催し、昨年とは趣を大幅に変更し、そうめん音頭の発表やそうめん二人羽織、音楽に合わせて書道を行うパフォーマンス等を企画しているということである。
また、吉本興業の「キャンパスボーイ」が出演し、観客の皆さんをさらに楽しませてくれる予定となっている。

過疎バス

荒井匡代委員
過疎バスの現況はどうなっているのか。

古林企画課長
つるぎ町内の国道と県道を走る路線バス及び山間地域とバス停間を運行するコミバスの撤退を四国交通バスから通告された。
本町の高齢化と過疎化は国の予想を遙かに超えており、住民が文化的な最低限の生活を営むためにも足の確保は必須条件である。
採算性を問うことは不可能としてもコスト意識をもちながら、平成25年4月以降は新たな公共交通手段とし、コミュニティーバスを活用した地域の実情に即したきめ細やかな公共交通の促進を図っていく。

ふるさと納税

荒井匡代委員
ふるさと納税の状況報告を求める。

浦税務国保課長
ふるさと納税制度は、平成20年度より開始されている。最近の実績では、平成22年度が11名の方から総額353万7500円、平成23年が10名の方から総額400万円の寄附をいただいている。

三好昭義委員長
ふるさと納税のPR活動は行っているのか。

浦税務国保課長
簡単なパンフレットを作成しているが、特に配布しているわけではない。

兼西茂町長
寄附される方の善意・好意に基づいて寄附していただいており、財政状況等を考慮しても町が必要以上に積極的にお願いすることは差し控えたいと考えている。

決算審査常任委員会

決算審査常任委員会では、一般会計・特別会計・公営企業会計の決算に関する議案を審査します。

9月13日開催

委員長　吉田　光子
副委員長　森長　秀行
委員　三好　昭義
委員　小坂　重夫
委員　佐藤　政正
委員　伊庭　英俊
委員　西谷　一廣
委員　谷川　真角

収入未済額と税の徴収率

谷川真角委員
町税の収入未済額４３７９万円の今後の収入見通しは。また、税の徴収率は。

浦税務国保課長
収入未済額については、税の公平性を確保するため、県や滞納整理機構等と連携しながら根気強く徴収に努めている。今後は、自主的な納付の促進にも努めていきたいと考えている。
町税の徴収率は９７・８％で、前年度とほぼ同じである。

法人税減額理由

小坂重夫議長
法人税が前年度に比較し、２７００万円程度減少している理由は。

浦税務国保課長
平成22年度は前年度の業績良好に伴い法人税収が例年より特に多かった。このため、平成23年度は法人税収が落ち込んだようにみえるが、平年並に戻ったと捉えている。

滞納整理機構

谷川真角委員
この負担金は、どのように算出して賦課されるのか。

浦税務国保課長
負担金は、国民健康保険特別会計と一般会計から同額を支出しており、つるぎ町として１８４万８千円を滞納整理機構へ負担している。金額については、均等割、徴収実績割及び処理件数等を基に算出して各市町村に賦課されている。

吉田光子委員長
平成23年度における滞納整理機構の実績は。

浦税務国保課長
平成23年度徴収金額は、国民健康保険税を含む町税全体で３３２万円程度である。

ＩＲＵ契約

吉田光子委員長
この契約はどのようなものか。

古林企画課長
ＩＲＵ契約とは、簡単に契約を破棄したり終了させたりすることができない契約のこと。
光ケーブルを利用した通信サービスは長期的に利用するものなので、途中で契約を解除した場合、住民や業者に不利益が生じるためこうした契約を締結する。

光電話

三好昭義委員
光電話の無料電話について、相手方が光電話に加入していなくても対応できないか。

古林企画課長
局番の頭に「3」をつけて電話する光電話はインターネットの技術を使った電話であり、従前の電話とは全く異なる仕組みで通話している。そのため、無料電話は、光電話の加入者しか利用できない。

決算審議

介護認定審査会

三好昭義委員
介護認定審査会は、どのように運営されているのか。

吉本保険課長
美馬市とつるぎ町が合同で運営しており、審査員65名(うち16名がつるぎ町)が5名1組で13班に分かれ、週3回、月12回審査を実施している。審査会への負担金は、審査件数と高齢者人口割りで算出し、7対3(つるぎ町3割)の割合で按分している。

介護保険

谷川真角委員
介護保険料の未納状況は。また、未納者へのペナルティーは。

吉本保険課長
平成22年度分が22名で73万3450円、23年度分が35名で109万3150円となっている。
2年を超える未納者については、将来において介護保険を利用しなければならない状態になった場合、本来1割である利用者負担が3割に引き上げられたり、介護サービス費が受けられなくなったりする。

半田病院事業

小坂重夫委員
病棟改築による起債借入後の元利償還見込みは。

鎌村半田病院事務長
現在、起債借入額に対する元利償還額は、医療機器等の償還期間が5年となっていることから償還額は減少している状況であるが、今後、南病棟改築工事に伴う借入額の元利償還が始まる平成27年度以降において、元利償還額への負担が増すものと考えており、起債計画の適正な運用を図っていく。

後期高齢者医療

吉田光子委員長
収入未済額は、町会計が立て替えて広域連合に納付しなければならないのか。

吉本保険課長
立て替え納付は行っていない。

簡易水道事業

西谷一廣委員
山間部にある小規模な集落が水道の整備を要望した場合、町として何らかの対応はしてくれるのか。

兼西町長
住民にとって水は命であるので町へ相談していただければ、関係各課等で協議し対応を検討させていただく。

小坂重夫委員
施設の老朽化等、運営も難しいところがあると思うが今後の見通しはどうか。

白井一宇支所環境水道課長
施設については、交付金事業を活用して概ね整備できたが、毎年50～100人人口が減少していく中、運営状況は次第に厳しくなっていくと思われる。

水道事業

三好昭義委員
未収金に含まれるのは水道料金だけか。

大西水道課主幹
この金額は3月末時点のものであるため、この中には、公共下水道補償工事負担金、3月分水道料金、預金利息が含まれている。これらの金額については4月に納入済みとなっている。過年度水道料金で3月末時点に未収入となっているのは、平成15年度以降8年間の合計で1785万1560円となり、未納者への通知や納付相談により、4月以降に142万5300円を回収している。

決算審議

基金決算額

三好昭義委員
基金決算額が9千万円程度前年度に比べ増加した要因は。

中川総務課長
平成23年度中に財政調整基金と減債基金を合わせて6億円積み立てた。一方で、半田病院病棟工事等により基金を約5億1千万円取り崩したため、差額分基金が増加した。

基金取り崩し

小坂重夫委員
4件の基金について取崩しが行われているが、それぞれの基金は使用目的が限定されているのか。

中川総務課長
財政調整基金と減債基金以外は、特定目的基金なので、条例で規定された目的以外には使用できない。
例えば地域福祉基金は、半田病院の病棟建替事業に、ひとり暮らし高齢者安心基金は、ひとり暮らしの方の見守り事業にというように限定して使用されている。

まちづくり事業基金

小坂重夫委員
この基金は毎年積み立てていたようだが、取り崩しはできないのか。

大垣副町長
この基金は、当初、基金の利子を使ってのソフト事業のみが各市町村に認められていた。
現在は借金の返済が終わった分から取り崩して使えることになっている。
借りた特例債は、10年から15年掛けて返済していくが、返済した額の7割は交付税で戻ってくる仕組みである。

小坂重夫委員
積み立てた基金を事業等に有効利用してはどうか。

中川総務課長
平成27年度から合併した各自治体に対して地方交付税の一本算定への移行が始まる。対象自治体は、交付税の減額を見込んで現在は貯蓄を行っている状態であり、本町もこれに備えて基金も確保しておきたいと考えており、ご理解をお願いしたい。

平成23年度出生祝金

	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子	合計
人数	17	23	6	6	1	53

保育所入所者（平成24年3月31日現在）

保育所名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計
貞光保育所	8	11	12	19	50
半田保育所	13	15	5	13	46

放課後児童クラブ利用児童、園児数
（平成24年3月現在）

貞　光 げんきっこクラブ	小学校1年～3年生 35人 幼稚園児 33人
半　田 げんきっこクラブ	小学校1年～2年生 15人 幼稚園児 3人
太　田 げんきっこクラブ	小学校1年～3年生 17人 幼稚園児 14人

議会インタビュー

町民の絆

子安 直市さん（98歳）
アサカさん（95歳）
（一字字太刀之本）

インタビュアー
西谷 一廣 議員

出会いは77年前の自然見合いです

共に大正生まれで、現在98歳と95歳という長寿のご夫妻。風邪も滅多に引かないというお二人に健康の秘訣などを伺いました。

◆お二人の日課は。

♡私は朝5時に起きて炊飯器のスイッチを入れ、7時頃から朝食を食べます。妻は9時頃に起きてきます。朝食の後、妻は畑仕事を、私は家の仕事などをします。

◆直市さんは後2年で100歳ですが長寿の秘訣などはありますか。

♡健康の秘訣といえばですね、夫婦で「ジンタン」を飲んでいます。私はずっと前から飲んでいますが、妻も10年ほど前に飲み始めて以来、一度も風邪を引かなくなりました。会社の宣伝をするわけではありませんが（笑）。

◆今までに、大きな地震や台風に遭遇した記憶はありますか。

♡地震では、昭和21年の南海地震が大きかったですね。その頃一宇ではまだ電気のない暮らしでしたので、ランプを使っていました。夜中にランプが大きく揺れて、グラグラっときたので、家の下の石垣が崩れては危ないと逃げようとしていたら、揺れがおさまりました。

台風では、昭和50年と51年に襲来した台風が一宇地区に大きな被害をもたらしたのでよく覚えています。

昭和50年の台風襲来時は大雨が降り続き、古見にある弟の家が浸水したので来てくれと連絡がありました。ところが、行く途中で、川が氾濫していて道路などは全く通れない。後戻りして帰ってくると、出がけにあった家の下に架かっている小さな橋は流されて跡形もなくなっていました。

◆この台風被害の後、大がかりな護岸工事が行われましたよね。

♡川幅もかなり広げたようですね。翌年も続いて台風が襲来し、今度は役場の裏山が大きく崩壊して役場や民家が被害を受けました。

◆詳しく覚えられていますね。先ほどから奥さんが笑顔でお話を聞いておられますが、お二人のなれそめを教えていただけますか。

♡では、お話ししましょうか。

最初の出会いは、妻が18歳、私が20歳過ぎの時でした。

子安地区のお祭りがあって、妻も実家から母子で相撲を見に来ていました。当時一宇では珍しかった蓄音機が私の家にあるからと父が2人を招待し、私の家に寄って蓄音機で音楽を聴いた後、一緒に相撲を見に行きました。

帰り際に妻が「明日は私の方の祭なので来てください」といいました。

◆その後、おつきあいをして結婚されたのですか？。

♡いいえ、その時が自然見合いで、2年後に話があり、両方が一度逢って知ってましたので、すぐ（結婚の）話がまとまりました。

その後6人（4男2女）の子どもを授かりました。

◆いろいろお話を聞かせてくださってありがとうございました。これからも二人揃ってお元気で仲良く暮らしてください。

岡本キク子さん（86歳）
（半田字下尾尻）

インタビュアー
齊藤　嘉文　議員
吉田　光子　議員

常に相手の立場で考えています

婦人会会長、母子会会長、老人クラブ会長等の役職を歴任されてきた岡本さん。いつも明るく頼もしいキク子さんの叶わなかった昔の夢などのお話を聞かせていただきました。

◆これまでにいろんな役職をされてきたと思いますが、その中で一番長く就任されたのは何でしょうか。

♡婦人会会長でしょうか、連合を含め約15年です。次に長いのが老人クラブ会長ですね。現在13年目でまだ継続しています。ほかには県の委託で、独居老人相談員を31年やっていました。

◆岡本さんの気遣い、心遣いに本当に感謝しているというお話をよく聞きます。

♡大したことは出来ませんでしたが、独居老人相談員の時は、マフラーや肩掛けなどを編んでプレゼントしたこともありました。また、婦人会の時には、白石地区へ運動会の踊りを教えにいったり、地区毎の敬老会にも6年間（踊りに）行ったりしていますので、今でもバスの中や町の敬老会の時には何人もの人が声をかけてくれ、手を握って離さない方もいらっしゃいます。とても懐かしく嬉しいものです。何時も私が思っていることは、人を大事にすること、常に相手の立場を自分に置き換えて考える思いやりの気持ちを持つこと、そして感謝の気持ちを忘れないことです。今までいろんな役職をしてきて思うことは、一人の力は微々たるものだけれども、皆さんが協力してくれて物事が成立できるのだということです。

◆86歳とは思えないほどお若くて元気でいらっしゃいますが、健康の秘訣は何ですか。

♡特にこれということはしていませんが、年をとっても趣味を持つことは大切だと思います。毎日することは、歩くこと、手先を使うパッチワークやビーズ細工をすることです。踊りも好きなので月4回日本舞踊を習いに行っています。

◆習字も大変お上手でいらっしゃいますが。

♡小学生の時、とても熱心に教えてくださった先生のお陰です。放課後4年間教えてくれたので少しは書けるようになりました。今でも同級生と昔を偲んで話しています。

◆畑は広く耕されていたのですか。

♡田、畑で一町一反位耕していました。桑畑もあり、蚕も春秋2回は飼育していました。遅くには酪農で乳牛も13頭飼育していましたので、鎌を持たない日はありませんでした。

◆ご兄弟は。

♡3人姉妹の長女です。父は私が7歳の時に亡くなり、母は祖父母と一緒に3人の子どもを育ててくれました。女手一つで育てられ、子ども心にも母の苦労がわかり、母を喜ばそう、安心させようと、妹たちにも厳しく言いつけました。長女に生まれたために、教師になりたい夢は叶いませんでしたが、妹二人は教師になれたので、祖父母、母に感謝しながら、云われたとおりの百姓を継いでやってきました。

人のできることはやってできないことはないと自分に言い聞かせながら、永い人生を歩いてきました。今振り返ってみた時に、長女に生まれた責任も全うできましたし、これで良かったんだと。今も周囲の人に慕われ、家族に大事にされて暮らせる喜びをかみ

しめながら、ありがとうと感謝しながら、残りの人生を頑張ってまいりたいと思っています。

◆岡本さんの頼もしさ、思いやりのルーツを知った気がします。今後も、会長として和を広げ、明るく元気でお過ごし下さい。

会音の和実行委員会
谷　英子さん
平井サダ子さん
インタビュアー
長浦　英彰　議員

桃花遊々・月花遊々を主催

平成22年4月に発足した会音(あいね)の和実行委員会は、貞光商工会女性部が前身で、約13年前から旧永井家庄屋屋敷をメインに町並を彩る2大イベント、「桃花遊々」・「月花遊々」を主催されています。開催についてのお話を伺いました。

◆現在の会員数は。

♡家族会員を含め65名です。

◆前身は、商工会女性部ということで、会員は女性ばかりですか。

♡いいえ、会音の和実行委員会になってからは、男性会員も増えてきています。男性が会員になってくださってからは、展示のスケールが全く違います。女性では限界があるので本当にありがたいです。材料を提供してくださったり、展示物をボランティアで作ってくださったり、多方面からのご協力をいただいています。

◆どのような趣旨でこうしたイベントを開催することにされたのですか。

♡町を活性化したいというのが一番の目的です。13年前旧永井家庄屋屋敷が完成したのを契機に、そこを拠点としたイベントを開催しようということになりました。

◆準備も大変だと思いますが、準備に要する時間はどれくらいですか。

♡約3カ月前から準備します。一つ終わるとすぐ次の構想を考えています。

◆随所に女性ならではの細かい配慮が伺えますが、手作りする会員の皆さんの手間は相当なものだと思いますが。

♡よく「入場料はいらないのですか」と聞かれますが、そうしたものはいただいていないので、なるべくお金がかからないように工夫し、家にあるもの持ち寄ったり、町民の方に無料で提供していただいたりしたものを、会員が手間をかけて展示品に加工していきます。

そうめんのススキなど、会員の知恵と工夫と根気でいろいろ作ってきましたので、できないものはないと思うくらいになってきました(笑)。

◆会音(あいね)の和とは。

♡自然の音や音楽など、いろんな音を皆で共有して仲良く楽しみましょう。という思いで名付けました。

◆桃花遊々のひな人形はどのようにして集められたのですか。

♡防災無線で募集しました。集まった中で、実際に展示しているものは千体～千五百体です。保管しているものも含めると全部で2千体以上あると思います。

◆2千体もどこに保管されているのですか。

♡端山の休校校舎を利用しています。

◆今後の目標は。

♡イベントに参加してくださる軒数が少しずつでも増えていって欲しいと思います。行燈(あんどん)の数も増やしたいです。また、若い方にも会員になっていただいて一緒に活動したいですね。

◆これからも会音の和が、町民の和として広がっていくことを期待したいと思います。

視察研修報告

9月4日（火）
道の駅「内子フレッシュパーク からり」

地域活性化の一翼を担う第3セクターの成功事例に学ぶ

内子町は、愛媛県のほぼ中央に位置し、平成17年1月に旧内子町、旧五十崎町、旧小田町が合併して誕生した人口約1万8千人の町です。

今回、視察研修を行った道の駅「内子フレッシュパークからり」は平成9年、旧内子町時代に設立され、今では全国各地でみられる「産直市場」の元祖ともいうべき存在です。ここを運営しているのが、株式会社内子フレッシュパークからり（以下、からり）で、町が50％、残りを生産者と多くの町民が出資している第三セクターです。

からりは、農産物の販売だけでなく、加工・製造によって付加価値を高め、さらにレストラン、農業体験などのサービスも提供することにより、平成23年度の売上は7億2300万円、農産物の直売だけでも4億6千万円の実績を挙げています。増資も行い、現在は資本金7千万円、株主数は677人となっています。

昭和61年、中山間地域農業に共通する脆弱な生産基盤と過疎化・少子高齢化などの課題を抱えていた旧内子町で、農家の女性を中心として地域の将来などを学習する「知的農村塾」がつくられました。

この「知的農村塾」の出身者が中心となって、特産物直売所の実験施設「内の子市場」が設立されました。実験で生じた課題（生産者名の表示、正確・迅速な精算、残品情報、直売所の販売状況など）が「からりネット」導入の契機となりました。

販売管理や情報ネットワークの必要性から、町は情報系の事業によって施設整備等を行いました。こうして、「内子フレッシュパークからり」が設立されました。

からりで注目したい点は、出荷農家の自主性・自発性と行政との連携を基盤としながら、農業にサービス業的視点を取り入れた総合産業化やICT（情報通信技術）の導入等の推進です。

ここで学んだことを今後の行政運営・議会運営に少しでも取り入れていけるよう、さらに研さんを重ねたいと思います。

▶一部事務組合臨時会の様子

議会の動き

8月	6日	◆一部事務組合臨時会
	7日	◆全員協議会
	27日	◆議会運営委員会
9月	4日	◆議会議員視察研修（愛媛県内子町）
	7日	◆第3回定例会開会本会議
	10日	◆文教厚生常任委員会
	11日	◆産業建設常任委員会
	12日	◆総務常任委員会
	13日	◆決算審査常任委員会
	19日	◆第3回定例会閉会本会議
10月	9～10日	◆議員研修（滋賀県）
	15日	◆議会広報編集常任委員会

発行　つるぎ町議会　編集　つるぎ町議会広報編集常任委員会

つるぎ町議会　〒779-4195　徳島県美馬郡つるぎ町貞光字東浦1-3　Tel 0883-62-3111　fax 0883-62-4944　Web_サイト http://www.town.tokushima-tsurugi.lg.jp